

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-183	高等学校	芸術科	書道 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
2 東書	書 I 305	書道 I		

1. 編修の趣旨及び留意点

本教科書は、生徒が、書に関心をもち、表現や鑑賞の基礎的な能力を育みながら書に対する感性を高め、書の伝統と文化を理解し、生涯にわたり書を愛好する心情をもてることを目指して編修しました。そのため、学習材を豊富に用意することで、初学者である高校生にも理解しやすい構成にしました。更に、古典から高校生に身近な題材まで、さまざまな学習材を用意し、伝統と文化に触れつつ、かつ現代の書にも関心がもてるように配慮しました。

また、教科書の判型を大きくしたり、写真や図版を鮮明なものにしたりすることで、見やすい紙面を実現しました。更に、特別支援教育や色覚特性にも配慮し、誰もが使いやすい教科書を目指しました。

2. 編修の基本方針

本教科書は、教育基本法に示された教育の目標を達成し、「1. 編修の趣旨及び留意点」で挙げたことを実現するべく、下記の基本方針に基づいて編修しました。

- (1) 生徒の興味・関心に対応した内容・構成にする…創作の題材を最近の歌の歌詞にしたり、漫画のキャラクターを掲載したりすることで、高校生の興味・関心に対応できるようにしました。また、随所にコラムを置くことで、楽しく学習を進められるよう配慮しました。
- (2) 自主的に学べる豊富な学習の手立てを用意する…特に、漢字の書や仮名の書において、理解を助けるための学習材を豊富に用意しました。硬筆での骨書きや筆順などを記すことで、自習の際にも活用できるよう配慮しました。
- (3) さまざまな角度から書の背景となる人物や文化を紹介する…各古典に作品解説や「人物」などのコーナーを設けることで、多角的に書に迫れるよう配慮しました。このコーナーを活用することで、世界史や国語科の古典とも関連を図れるようにしました。
- (4) 中学校書写や日常生活との連携を強化する…教科書冒頭に中学校書写の復習ページを用意し、中学校書写で学習したことを具体的に確認できるようにしました。また、はがきや手紙の書き方など実用的な書を豊富に紹介し、卒業してからも必要な力を身につけられるようにしました。
- (5) 鑑賞の際に平易な言葉を用いて説明する（言葉の力を育てる）…古典の鑑賞の際に平易な言葉で解説することにより、鑑賞したことを言葉で表現する力が身につくよう配慮しました。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
書写から書道へ 1 書写の確認 2 用具・用材 3 姿勢・執筆法	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢や執筆法の知識を学ぶことで、ふだんの姿勢への意識を高め、身体を健康を養えるよう配慮しました。(第1号) ・筆、墨、硯、紙の作り方を紹介することで、ふだん使用している用具・用材を作る仕事に注目させ、勤労を重んじる態度を養い、用具・用材を大事に使用する心情を育めるよう配慮しました。(第2号) ・日本の伝統産業である、筆、墨、硯、紙の作り方を紹介することで、伝統と文化を尊重する態度を養えるよう配慮しました。(第5号) 	8～9 ページ 5～7 ページ 5～7 ページ
漢字の書 1 漢字の書を学ぶ 2 楷書 3 行書 4 草書 5 隸書 6 篆書 創作の手順 創作参考作品	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書に関する知識が幅広く正確に身につくように、さまざまな種類の漢字の古典を掲載し、それぞれに「字形と筆順」「人物」などの学習材を豊富に用意しました。(第1号) ・創作の手順を示し、創作を促すことで、生徒の創造性を伸ばすよう配慮しました。(第2号) ・鑑賞会の場面を設定し、生徒どうしの話し合いを通して作品を作り上げていくことを経験させることで、自他の協力の必要性を体感できるよう配慮しました。(第3号) ・毛筆の作品例の言葉を「大平原」にするなど、自然を想起させる言葉を提示することで、自然や環境への意識をもたせるよう配慮しました。(第4号) ・中国で生まれた漢字が日本に渡って仮名に変遷していく過程を紹介することで、日本と中国が育んできた文字を通して、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養うよう配慮しました。(第5号) 	20～55 ページ 56～57 ページ 60 ページ 57 ページ 12～13 ページ
仮名の書 1 仮名の成立 2 仮名の用具・用材 3 仮名の筆使い 4 平仮名の単体 5 連綿 6 変体仮名 7 全体の構成 創作の手順 創作参考作品	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の起源から現在までの変遷をまとめて、教養として身につけられるよう配慮しました。(第1号) ・創作の手順を示し、創作を促すことで、生徒の創造性を伸ばすよう配慮しました。(第2号) ・男女のキャラクターを配し、お互いが話し合う場面を提示することで、男女の平等と自他の協力を示唆しました。(第3号) ・創作参考作品の文言を、自然のことを詠んだ俳句や短歌にすることで、自然や環境への意識をもたせるよう配慮しました。(第4号) ・日本で発展した仮名の変遷を紹介することで、日本の伝統と文化を尊重する態度を養えるよう配慮しました。(第5号) 	62～63 ページ 82～83 ページ 84 ページ 84 ページ 62～63 ページ
漢字仮名交じりの書 1 いろいろな線による表現の広がり 2 線質の調和による表現 3 用具・用材による表現 4 紙面構成のバリエーション 5 古典を生かした創作 創作の手順 創作参考作品 6 生活の中の書	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品の文言を「親しき中にも礼儀あり」とし、道徳心を培えるよう配慮しました。(第1号) ・創作の手順の題材を「ありがとう」という歌にすることで、感謝の気持ちを考え、道徳心を培えるよう配慮しました。(第1号) ・創作の手順を示し、創作を促すことで、生徒の創造性を伸ばすよう配慮しました。(第2号) ・社会の中にあるさまざまな書を紹介することで、書を通して社会に参画することの意義を考えられるよう配慮しました。(第3号) ・創作参考作品の文言を、「自然に帰れ」など、自然に関する言葉にすることで、自然や環境への意識をもたせるよう配慮しました。(第4号) ・年賀状やのし袋など、日本の伝統と文化に関する題材を教材化することで、伝統と文化を重視する態度を養えるよう配慮しました。(第5号) 	96 ページ 98～99 ページ 98～99 ページ 106～107 ページ 100～101 ページ 104～105 ページ

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
篆刻と刻字 資料 書道用語 200 書道史略年表 日本書道鑑賞の旅 書道史地図	<ul style="list-style-type: none"> ・「書道用語 200」で書道用語を 200 語取り上げ、書道に関する幅広い知識が身につくよう配慮しました。(第 1 号) ・篆刻や刻字において創作の手順を示し、創作を促すことで、生徒の創造性を伸ばすよう配慮しました。(第 2 号) ・日本の各地にある、書を所蔵している美術館・博物館を紹介することで、郷土が育んできた伝統と文化に触れられるよう配慮しました。(第 5 号) ・日本と中国の書道史地図を掲載し、書道を通してそれぞれの国が発展したり交流したりしたことを学べるよう配慮しました。(第 5 号) 	115～122 ページ 108～110 ページ 112 ページ 128～129 ページ 裏見返し

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・教科書冒頭に中学校書写で学習したことを確認するページを設けました。中学校書写で学習したことを確認してから高等学校書道の授業に入ること、義務教育での成果を高等学校書道に結びつけられるよう配慮しました（学校教育法第 51 条 1 号）。 →2～4 ページ
- ・はがきや手紙の書き方など、実用的な書を取り上げ、社会に出てから必要となる知識や教養を身につけられるよう配慮しました（学校教育法第 51 条 2 号）。 →102～107 ページ
- ・随所に創作を促す指示や学習材を用意し、個性を伸ばせるよう配慮しました（学校教育法第 51 条 3 号）。 →56～57, 82～83, 98～99, 108～110, 112 ページなど

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-183	高等学校	芸術科	書道 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
2 東書	書 I 305	書道 I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、生徒が、書に興味・関心をもち、表現や鑑賞の基礎的な能力を身につけることを目指して編修しました。そのため、古典を理解するための学習材を豊富に用意し、初学者である高校生にとって理解しやすい構成になるよう留意しました。以下に具体的な特色を挙げて説明します。

(1) 漢字の書

① 古典を理解するための学習材を豊富に用意

- 各古典を平易な文章で解説しました。筆者が判明している書については「人物」欄を設け、筆者についての解説も加えました。
- 各古典に「臨書・鑑賞の要点」と「自己評価の要点」を用意し、自習の際にも手がかりになるようにしました。
- 各古典に「字形と筆順」を設けて、硬筆での骨書きと筆順を記しました。筆路や筆順を理解するのに役立ちます。
- ページ下部に年表の帯を用意し、当該の古典が時代の流れの中でどの時代に位置するものなのかが、視覚的に分かるよう配慮しました。

② 鮮明な写真を大きく配置

- 各古典の写真は鮮明なものを用意しました。また、色味なども原典に近づけるよう調整しました。
- 各古典において、学習材との比率を考えながら、紙面に適切な大きさと写真を配置しました。

③ 古典どうしの比較

- 楷書では、六つの古典を並べて「之」の文字を抽出し、それぞれの特徴を比較できるようにしました。
- 「九成宮醴泉銘」と「孔子廟堂碑」を比較する学習材を設定し、比較することでそれぞれの特徴を捉えられるようにしました。

④ 鑑賞へのいざない

- 「鑑賞会」のページを設けて、鑑賞の仕方を丁寧に扱いました。
- 創作参考作品のページでは、キャラクターが鑑賞をした設定で会話をしています。鑑賞を通して言語活動ができるよう配慮しました。

(2) 仮名の書

① 古典を理解するための学習材を豊富に用意

- 各古典を平易な文章で解説しました。それぞれに「人物」欄を設け、筆者についての解説も加えました。
- 各古典に「臨書・鑑賞の要点」と「自己評価の要点」を用意し、自習の際にも手がかりになるようにしました。
- ページ下部に年表の帯を用意し、当該の古典が時代の流れの中でどの時代に位置するものなのかが、視覚的に分かるよう配慮しました。

② 鮮明な写真を原寸で配置

- 各古典の写真は鮮明なものを用意しました。また、色味なども原典に近づけるよう調整しました。
- 各古典を原寸大で配置することで、仮名古典のもつ味わいを忠実に再現しました。

③ 分かりやすい学習材

- 連綿の文字や連綿線を色分けして表示し、文字の切れ目が分かるよう配慮しました。
- 平仮名单体の一覧や変体仮名の一覧は、文字を古典から集字し、古典のもつ雰囲気味わえるようにしました。

④ 鑑賞へのいざない

- 創作参考作品のページでは、キャラクターが鑑賞をした設定で会話をしています。鑑賞を通して言語活動ができるよう配慮しました。

(3) 漢字仮名交じりの書

① 中学校書写の復習が充実

- 教科書冒頭に中学校書写を振り返る学習材を設定しました。図版を用いて分かりやすく解説しました。

② 作品例を豊富に用意

- 構成や用具・用材の解説の際に、参考になる作品例を豊富に用意しました。創作の際の手がかりとして活用できます。

③ 高校生に身近な題材を設定

- 創作の題材をいきものがかりの「ありがとう」にするなど、高校生に身近な題材を用意することで、抵抗感なく学習に取り組めるよう配慮しました。

④ 実用書の重視

- 手紙やはがきの書き方など、実用書の例を豊富に用意しました。卒業してからも活用できる学習材になっています。

(4) その他

① 篆刻・刻字の充実

- 篆刻・刻字においては、手順を紹介するとともに創作参考作品を列挙し、学習の手順が見えるよう配慮しました。

② 巻末に豊富な資料を用意

- 巻末に書道用語集を用意しました。本編での学習の手がかりにしたり、書道用語をまとめて学習したりする際に活用できます。
- 巻末に書道関係の博物館や美術館を紹介するページを用意し、興味をもった高校生が見学に行けるよう配慮しました。
- 巻末に書道史略年表を用意し、日本と中国の書の歴史を概観できるよう配慮しました。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
【口絵】書の美，究極の行書，仮名の美の極致		内容 B ア，イ，ウ	口絵	
書写から書道へ	1 書写の確認	内容 A(1)イ，ウ 内容の取扱い(2)，(3)	2～4 ページ	
	2 用具・用材	内容 A(1)ア	5～7 ページ	
	3 姿勢・執筆法	内容 A(1)ア	8～9 ページ	
	落款を学ぼう	内容 A(1)ア，ウ 内容の取扱い(6)	10 ページ	
漢字の書	1 漢字の書を学ぶ	内容 B ウ，エ	12～14 ページ	
	2 楷書	内容 A(2)ア，イ，ウ，エ，Bイ，ウ 内容の取扱い(1)，(2)	15～31 ページ	
	3 行書	内容 A(2)イ，ウ，エ，Bイ，ウ 内容の取扱い(1)，(2)	32～47 ページ	
	4 草書	内容 A(2)イ，ウ，エ，Bイ，ウ 内容の取扱い(1)，(2)	48～49 ページ	
	5 隸書	内容 A(2)イ，ウ，エ，Bイ，ウ 内容の取扱い(1)，(2)	50～53 ページ	
	6 篆書	内容 A(2)イ，ウ，エ，Bイ，ウ 内容の取扱い(1)，(2)	54～55 ページ	
	創作の手順 創作参考作品	内容 A(2)ア，イ，ウ，エ，Bイ 内容の取扱い(1)，(2)，(5)，(6)	56～59 ページ	
	鑑賞会をしよう	内容 B イ 内容の取扱い(1)，(5)	60 ページ	
仮名の書	1 仮名の成立	内容 A(3)イ，Bエ 内容の取扱い(2)	62～63 ページ	
	2 仮名の用具・用材	内容 A(3)ア	64 ページ	
	3 仮名の筆使い	内容 A(3)イ	65 ページ	
	4 平仮名の単体	内容 A(3)イ，ウ 内容の取扱い(2)	66～67 ページ	
	5 連綿	内容 A(3)ウ	68～69 ページ	
	6 変体仮名	内容 A(3)イ，ウ 内容の取扱い(2)	70～71 ページ	
	7 全体の構成	内容 A(3)ア，イ，ウ，エ，Bイ，ウ 内容の取扱い(1)，(2)	72～81 ページ	
	創作の手順 創作参考作品	内容 A(3)ア，イ，ウ，エ，Bイ 内容の取扱い(1)，(2)，(5)，(6)	82～84 ページ	

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
漢字仮名 交じりの書	1 いろいろな線による 表現の広がり	内容 A(1)イ 内容の取扱い (2)	86～87 ページ	
	2 線質の調和による表 現	内容 A(1)イ 内容の取扱い (2)	88～89 ページ	
	3 用具・用材による表現	内容 A(1)ア, イ 内容の取扱い (2)	90～91 ページ	
	4 紙面構成の バリエーション	内容 A(1)ウ, オ 内容の取扱い (2)	92～95 ページ	
	5 古典を生かした創作	内容 A(1)エ, Bイ, ウ 内容の取扱い (1), (2)	96～97 ページ	
	創作の手順 創作参考作品	内容 A(1)ア, イ, ウ, エ, オ, Bイ 内容の取扱い(1), (2), (5), (6)	98～101 ページ	
	6 生活の中の書	内容 A(1)ア, イ, ウ, オ, Bア, イ 内容の取扱い (2), (3)	102～107 ページ	
篆刻と刻字		内容 A(2)ア, イ, ウ, エ, Bイ, ウ 内容の取扱い (4)	108～113 ページ	
資料	いろは歌を鑑賞しよう	内容 B イ, ウ	114 ページ	
	書道用語 200	内容 B ウ	115～122 ページ	
	書道史略年表	内容 B ウ	123～127 ページ	
	日本書道鑑賞の旅	内容 B ア, イ, ウ	128～129 ページ	
	書道史地図	内容 B ウ	裏見返し	